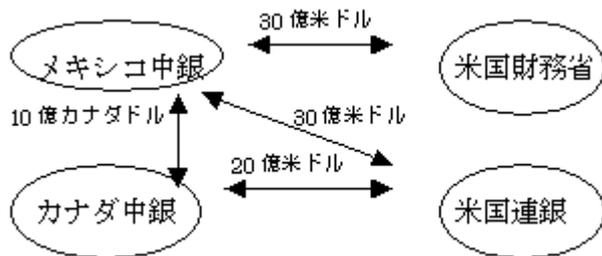


ラテン・アメリカの地域金融協カフレームワーク

主任研究員 吉田 頼且

2月22日に韓国とインドネシア両国の中央銀行が10億ドルの通貨スワップ協定に合意し年内に調印予定と報道された。通貨スワップ協定は、投機的な通貨攻撃を受けた際に為替市場への介入資金を機動的に供与することを主な目的とする。アジアにおける地域金融協カの一環として、チェンマイ・イニシアティブによる二国間通貨スワップ協定締結が進展し、日本、韓国、中国とASEAN諸国間で構築されたネットワーク総額は、345億ドル(2003年12月末)に達している。

ラテン・アメリカにおいても、通貨スワップ協定を始めとする地域金融協カのフレームワークが存在することはあまり知られていない。メキシコは、NAFTA(北米自由貿易協定)のメンバー国として、米国、カナダの金融当局と各々通貨スワップ協定を締結し毎年更新している。1994年1月に発効したNAFTAの枠組みの下、同年4月にNAFTA加盟3ヶ国間でNAFTA(北米枠組み協定)が調印され、NAFTAに基づく通貨スワップ協定が締結されたものである。



メキシコ中銀は米国と60億米ドル(米財務省為替安定化基金30億ドル、米連銀30億ドル)、カナダ中銀と10億カナダドルのスワップ枠を設定し、米連銀とカナダ中銀は20億米ドルの枠を設定(上図)。

1995年のメキシコ通貨危機の際には、通貨スワップ協定に基づく資金が引き出されたが、市場の投機圧力を押えきれず変動相場制への移行を余儀なくされ、IMFファシリティを含む約300億ドルの救済パッケージがメキシコに供与された。

次に、アンデス地域5カ国(コロンビア、エクアドル、ヴェネズエラ、ペルー、ボリビア)を中心に1991年に設立されたラテン・アメリカ準備基金(FLAR)がある。1978

年にアンデス準備基金として発足し、名称変更後コスタ・リカを加え現在6ヶ国が加盟している。各国払込資本(2003年3月末総額20億ドル)を使い、IMFファシリティを補完して加盟国の国際収支赤字に対する救済融資を行ってきた。現在は各国外準の運用を主要業務としているが、2003年7月には基金の高格付(Aa2/A+)を利用して150百万ドルのヤンキー債発行を実現させた。

ラテン・アメリカ諸国とアジア諸国は共に通貨危機に遭遇したことを考えれば、もっと互いの経験に基づく知識を共有して各自の地域金融協力を活かす道があるのではないか。その意味では、日本政府とIDB(米州開銀)が1999年に設立したジャパン・プログラムが、両地域間の知識やベスト・プラクティスの移転支援を目的とし、IDBとADB(アジア開銀)共同の政策調査・比較研究を活発化させている点や、2001年に発足したFEALAC(東アジア・ラテンアメリカ協力フォーラム)が外相会合、セミナー等を通じて活動し始めた点が特筆され、今後の進展が期待される。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2004 Institute for International Monetary Affairs (財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-Chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町1-3-2

電話：03-3245-6934 (代) ファックス：03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>